

2022.10.26

No. 173



立科町

議会だより



目次

子ども議会開催P2~3
議案審議報告P4~5
常任委員会報告P6~7
決算特別委員会報告P8~11
一般質問P12~15
編集後記P16

稲刈りで
全員集合

子ども議会開催！

7.13/7.21

—子どもたちが参加するまちづくり—

子どもたちに未来の主権者として、町議会の事を知ってもらい、町に関心を持ってもらおうと平成28年に続き子ども議会を開催しました。立科小学校6年生が社会の授業で国会など国の仕組みを学習していることを受け、7月13日には立科小学校に出向き、町民・議会・行政などの仕組みや町議会の仕事などをスライドを使って事前のレクチャーをしました。



議会を代表して田中議長がごあいさつ



議会の仕組みなどを説明



児童の質問に答える

7.21 本会議場で記念撮影



1組



2組



「どうしたら人口減少を止められるんですか」

子どもたちから鋭い質問



議長「質問ありますか」「ハイ」「ハイ」「ハイ」
次々と手が挙がり、時間が足りなくなった。

7月21日、役場に6年1組、2組の児童が順番に庁舎を訪れ、議会の模擬体験をしました。

1クラスを4班に分け議員も4つに分かれ、役場庁舎を案内。防災無線室、土地改良区、町長室を案内。各課の仕事を説明し、議場へ。

4階ではまず、登庁ランプを押し（当日は班の名前となっていました）控室、議会事務局、議長室、委員会室を見学して、本会議場につくとまず、傍聴席を一回り。その後、子どもたちから質問を受けました。（主なものを紹介）



「立科町が抱える課題は何ですか？」

A 少子高齢化で人口が減るとい問題です。町の人口が減ると、町の元気がなくなり、集落が維持できなくなり、暮らしていかれなくなるという問題も起きます。町は何とかして、町に住んでもらう人を多くしようとあれこれと工夫をしています。



「どうやって人口を増やしていくのですか？」

A これはとても難しい問題で、みんなで考えているところです。皆さんに最初にできることは、転校生や移住してきた人たちと仲良くしてください。そうすることで輪が広がり立科町が住みやすい町だと思ってもらえます。

そこに住んでもらうには、働く場所や住むところが必要。ひとつひとつ解決のためにがんばっています。



「どうして議員になろうと思ったんですか？」

A 大好きな立科町の町づくりに参加して住みよい町にしようと思ったからです。



「町はSDGsについて、やっていること、取り組みはありますか？」

A 現在町では「気候温暖化対策の計画」を策定中です。町・県・国・事業所そしてみんながそれぞれの立場でできることをやっていくことが必要。例えば私たちにできることとして、燃やすごみを減らす、水・電気など無駄使いをしないこと、遠くから燃料や電気を運ばず、水力・太陽光など身近なところでエネルギーを自給できるようにするシステムを作るなど、様々な取り組みが必要です。



「建設環境課で大変だったことは何ですか？」

A ごみの回収は大変な仕事。減量化をしたいが簡単には進みません。台風19号では大きな被害を受け、復旧には時間とお金がかかりました。水道水を守る仕事や、皆さんが使った水を処理する仕事も大変です。

どれが一番大変ということではなく、他の課も難しい問題を抱えながら皆さんのために仕事をしています。

他にも「なぜ議員の定数が減ったのか」「議員に休みはあるのか」などの質問がありました。様々な鋭い質問に、議員も真剣に答えていました。議員は「子どもたちにわかりやすく説明するのが難しかった」「子どもたちも真剣に考えていることが分かった」と認識を新たにしました。

令和4年第3回定例会を9月2日から9月16日までの15日間の会期で開き、条例や補正予算、同意、認定などについて審議を行った。審議された内容や議決結果など、その主な内容を掲載。



◎全会一致で可決・承認 ○賛成多数で可決・承認 ×否決

◇ 条例の制定 3件 一部改正 1件	結果
立科町議会議員及び立科町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例 立科町議会議員及び立科町長の選挙にかかる選挙運動用の自動車・ビラ・ポスターについて公費負担とする条例	◎
立科町温泉条例 町有財産の有効活用を図るため、町が所有する「樽ヶ沢温泉」を年間500万円で分湯できるように規定	○
立科町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例 過疎地域として指定されたことにより、製造業・旅館業・農林水産物販売業・情報サービス業の用に供する設備を取得した場合に固定資産税を免除できるよう規定	◎
立科町町税条例の一部を改正する条例制定 超過税率(1.2倍)を採用していた法人町民税の均等割を標準税率に引き下げる改正	◎
◇ 補正予算 5件	
令和4年度立科町一般会計補正予算(第6号) 1億4,607万6千円を追加し、予算の総額を57億6,837万6千円とするもの。 歳入では普通交付税の確定による1億2,145万6千円の増額や前年度繰越金の確定による2億4,087万2千円の増額など。 歳出では役場庁舎・児童館・保育園の照明器具LED化改修工事に6,383万3千円、土砂流出防止のため極楽坂残土置場から雨境残土置場への搬出費用1,100万円の増額などが主なもの。	◎
令和4年度立科町一般会計補正予算(第7号) オミクロン株に対応した新型コロナウイルスワクチン接種の計上など2,872万円を追加し、予算の総額を57億9,709万6千円とするもの。	◎
令和4年度立科町国民健康保険特別会計補正予算(第1号) 前年度繰越金確定に伴う各科目の補正などが主なもの。	◎
令和4年度立科町介護保険特別会計補正予算(第1号) 過年度分返還金の確定や前年度繰越金確定に伴う補正が主なもの。	◎
令和4年度立科町水道事業会計補正予算(第2号) 消火栓の移転(西塩沢)・更新(外倉)に要する費用として162万円を計上	◎
◇ 認定 9件	
令和3年度立科町一般会計及び後期高齢者医療特別会計を除く5特別会計の歳入歳出決算認定 令和3年度立科町水道事業会計及び下水道事業会計の決算認定	◎
令和3年度立科町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○
◇ 人事案件 2件	
立科町教育委員の選任 遠山貴美枝氏の新任を同意 人権擁護委員の推薦 川合登巳雄氏の再任を同意	◎
◇ その他 4件	
令和3年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分、令和3年度下水道事業会計未処分利益剰余金の処分	◎
工事請負契約の締結について(2件)	◎
◇ 議員発議 1件	
故安倍晋三元首相の「国葬」中止を求める意見書	×
◇ 報告 2件	
健全化判断比率等の報告、立科町教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書	



立科町温泉条例制定について

★賛成討論 10番 瀧澤 壽美雄

この条例は、立科町が所有する温泉の適正な維持管理に関し、必要な事項を定めることを目的とするものである。この大事な立科町の天然資源を立科町の収入の一部にしようという事は当たり前なことで、将来にわたって毎分70リットルまで年間500万円という内容で大きな財源に成りうるものである。

企業が前もって給湯用の配管をしている、拙速ではないかと言う事であるが、本来企業というのは自己責任においての先行投資は当たり前な事である。

町はそのような町内企業に対し、公益的な考えの下、できる応援はしても、おかしくはないと思う。

天然温泉の有る大きな観光施設が新築され、白樺高原は大きく変わると感じざるを得ない。この条例はこれからの白樺高原の発展に関わる大きな意味のある条例であると考え、私は賛成をする。

★反対討論 村田 桂子

この条例は、民間会社から樽が沢温泉の活用を申し込まれ、使用料を徴収する必要が生じたため、上程された。未活用資源の活用がされるという点では賛成する。反対の理由は条例制定過程にある。

議会で温泉活用について条例で定める前に工事が始まっていることに大きな違和感がある。

5月31日の「工事着工に支障なし」との意見書、7月1日の町有地貸し付け契約締結など、本来温泉活用の諸条件を定めた条例制定後にあるべき手続きが先行した。

このところ、某ホテルの申し入れを受け、直ちに辺地計画の変更、テニスコートを駐車場に貸し出し、ホテル前道路の線形改善工事など、ホテルの意向を汲んで短期間のうちに進め便宜を図っている。あえて反対としたい。

故安倍晋三首相の「国葬」中止を求める意見書

★賛成討論 村田 桂子

今回の「国葬」決定は、法的根拠のない中、内閣の一言で決められた極めて恣意的な決定であり、国民の過半数、県民の7割が反対している。

安倍元首相の功績には影の部分が多く指摘され「モリ・カケ・さくら」・アベノマスク、職員を自死に追い込んだ公文書改ざん、内閣法制局長官のすげ替えで集団的自衛権を合法化し自衛隊の海外派兵に道を開いた。検察庁長官人事への関与、内閣人事局の創設など平和と議会制民主主義の破壊につながる強権的な手法は問題である。旧統一協会の金看板となり被害を拡大したと推察できる。非正規雇用の拡大で格差と貧困はいつそう広がり経済は停滞し社会はいつそう不安定になった。こうした陰の部分も「国葬」強行で免罪されることとなる。幾重にも問題をはらんだ「国葬」は中止を求める。

★反対討論 森澤 文王

国葬に関して反対、賛成については、個人の意見は様々で良いかと思う。

そういう事案に対して「立科町議会」という名前を使って、あたかも町民の代表として意見を取りまとめたかの様に意見書を提出するという事は、議席を預かる者として、受け入れることはできない。

以上を踏まえて考えるべきであるとして、反対討論とする。

認定第1号 令和3年度一般会計歳入歳出決算

★賛成討論 村田 桂子

令和3年度は、コロナ感染症対策でコロナワクチン接種、事業者・町民・学生支援など、国の臨時交付金を活用して様々な施策を展開。台風19号の復旧と集中豪雨の被災回復にも大きな力を注ぎ、理事者・町職員の大奮闘に心から敬意と感謝を表す。

職員の労働環境については前年度当初に職員の不幸な事故があり、職員の労働環境の把握・改善が課題となった。労働時間の自動計測機器を導入したが残業時間がな

かなか減らないことも明らかに。業務時間が給与に適正に反映されることを期待する。会計年度任用職員の待遇改善が進んだが正規化すべき。

電算共同化で経費が削減、移住定住政策では空き家活用が増えた。気候危機打開のため生ごみ減量化が効果をあげている。畜産農家の屠畜場への搬出経費補助を実施、教育現場にコロナ対応も含め補助員が配置され効果をあげている。評価する。

総務経済常任委員会

所 管 総務課・企画課・産業振興課・会計室・議会事務局
 委員長／森澤文王 副委員長／芝間教男
 委 員／今井英昭 瀧澤壽美雄 榎本真弓 今井健児

9月12日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。

質疑 Q & A

立科町議会議員及び立科町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例制定について

- Q** 条例の名称の順番はこの通りか。
- A** 先行し制定している自治体をみても議員及び町長の順番である。
- Q** この条例制定は法定得票数と関係するののか。
- A** 条例制定に合わせて、供託金制度を取り入れることになる。法定得票数に達しない場合は、供託金15万円は没収になる。
- 立科町温泉条例の制定について**
- Q** この条例の発案はいつか。
- A** これまで温泉の利活用を検討していたが、この度、民間から温泉使用の申し入れがあったので提案することになった。
- Q** 条例第11条、採取量毎分70リットルは妥当か。
- A** 令和2年に揚湯検査を行った。毎分60〜90リットルで、採取が少ないと温度が上がらず、多いと枯渇するため上限70



樽ヶ沢温泉の井戸を前に説明を受けた。

- Q** 温泉使用料年額500万円の根拠は。
- A** リットルが妥当と判断した。不動産鑑定評価額を基準に、当時の温泉採掘費用などから判断した。30年間使用すると1億5千万円の収入になるため、譲渡ではなく使用とした。使用期間の30年をどこかに明記するののか。
- Q** 条例が制定された後、許可証を作成し明記する。
- A** 立科町一般会計補正予算(第6号)について
- Q** 財政調整基金の皆減は。
- A** 地方交付税や前年度繰越金の額の確定により、基金から繰り入れる必要がなくなつたため。
- Q** 庁舎管理経費、庁舎改修工事でLED照明器具にした時の効果は。
- A** 庁舎全体でCO₂を10・1%



移住者向け長期滞在住宅

- Q** 削減できる試算である。当初予算に上げなかったのはなぜか。
- A** 過疎対策事業債を活用できることになったので。
- Q** ふるさと寄付金事業経費のPR広告委託料の内容は。
- A** 主にインターネットのヤフー広告で、返礼品のタイムミン
- Q** 広告に合わせた2か月分である。ふるさと納税の利用者が多いこと、広告のキャンペーン期間であり、安価で効果が出ると判断した。
- Q** 移住・定住推進経費の増額は。
- A** 資材費の高騰とエアコン設置が必要となったため。
- Q** 庁内業務量調査ツール作成とは。
- A** 各課の業務内容と作業時間の可視化を行う。引継ぎなどにも利用できるため、業務改革にも活用できる。

賛否一覧

議案等番号	議案等の件名	議員名										議決結果		
		今井健児	芝間教男	中島健男	中村茂弘	森澤文王	今井清	村田桂子	榎本真弓	森本信明	瀧澤壽美雄		今井英昭	田中三江
議案第45号	立科町温泉条例制定	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	○	—	可決
認定第3号	令和3年度立科町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	○	—	認定
発議第2号	故安倍晋三元首相の「国葬」中止を求める意見書について	■	○	■	■	■	■	○	■	■	■	■	—	否決

※「○」は賛成 「■」は反対 議長(田中三江)は採決に加わりません。
 ※これ以外の案件等は、全会一致でした。

社会文教建設常任委員会

所 管 町民課・建設環境課・教育委員会
 委員長／今井 清 副委員長／中島健男
 委 員／田中三江 森本信明 村田桂子 中村茂弘

9月9日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。

質 疑



令和4年度立科町一般会計 補正予算(第6号)

- Q** 国民健康保険特別会計の繰出金、システム改修とは。
- A** 保険証の記載内容から性別欄を削除する。
- Q** 老人福祉センター床暖房制御装置・ポンプの修繕とは。
- A** 床暖房用のポンプから不凍液が漏れていたものを修繕する。
- Q** 児童館・保育園照明器具のLED化工事とは。
- A** 脱炭素化地球温暖化防止対策として熱の出ないLEDに児童館103台、保育園733台すべての照明を替えるもの。
- Q** まだ耐用年数にも達していない照明を取り換えるのは早いのではないか。
- A** 水銀使用のものもあり、壊れた時の危険性を考え、

- Q** 全部取り換えることにした。財源として過疎債を充てるとしているが、その順番は。
- A** 公共施設等適正管理推進事業債の脱炭素化事業を活用した整備を4年で計画していたが、「過疎対策事業債で3・5年間」と前倒しで行いたい。防災・避難所・教育施設を優先する。

- Q** 高齢者福祉事業で、正職員1名減の補充で会計年度任用職員1名となっているが、正規職員を配置するべきではないか。
- A** 自己都合で1名退職した緊急対応として、介護に詳しい人を会計年度任用職員として採用した。9月には正規職員を配置した。

- Q** 高齢者生きがいセンターの修繕257万円とは、ずいぶん高いと思うが。
- A** 開閉利用が少なかったため、廊下排煙窓開閉装置のチェーンが錆びて動かない。すべて取り換える。また、床暖房用不凍液の交換もする。

- Q** 予防接種事業で子宮頸がんワクチン接種に国の補助はないのか。
- A** 国の補助はいずれ入ってくる予定。
- Q** 接種の対象者は。
- A** 平成9年～平成18年の9年間、ワクチン接種に消極的であった時代の現在25～16才を接種対象に追加する。212人の内3分の1程度を見込んでいる。



極楽坂残土置場

- Q** 道路維持管理経費で極楽坂残土置き場残土搬出1100万円とは。
- A** 台風19号での災害残土は、水を多量に含み緩かったため、緊急対応で極楽坂に持ち込んだ。安定的に処理するために雨境の残土置き場に搬出する。1500㎡で、大型ダンブカー1300台分である。

- Q** 教育費の職員旅費とは何か。
- A** オレゴン州から新たに迎えるALTジュリー・オールデンさんの入国にかかる経費である。

令和4年度立科町介護保険 特別会計補正予算(第1号)

- Q** 基金からの繰入れが大きくなるか。
- A** 令和3年度の介護給付費が減り、繰越金が確定したため。
- Q** 令和3年度の介護給付費が6つの国庫補助金の確定による差額返還金。



決算特別委員会

9月13日・14日の2日間、決算特別委員会を開催し、決算認定の審査を行った。

◆一般会計

●歳入

問 不納欠損と収入未済の内容は。

答 不納欠損は107件、18名。令和2年度と比較して多くなっている。理由は、法人は5法人で破産や清算による登記簿閉鎖、個人は長期滞納者が死亡し相続人が相続放棄したため、外国人の行先不明などである。滞納整理については、公平公正に行っていく。収入未済の徴収率は、令和2年度よりも上がった。

答 令和3年度は特に大きな災害も無かった。年々退職団員数に新入団員数が追いついていない。処遇改善をどのようにしていくか検討していく。

問 消防団の運用面の改善はどうだったか。

答 実績の報告を受けて、情報配信システムを導入したので、団に負担をかけないよう行っていく。

問 災害が全く無かったらどうなるか。

答 出動手当だけが減少する。退職報償掛金は変わらない。

問 防災関係経費、委託料の説明と効果は。

答 国土強靱化地域計画の修正などの業務委託料である。計画策定は、大規模災害時の被害の縮小計画など目的があるが、策定することで交付金や補助金を受けられることにもなる。

問 消防団協力事業所と夜間の照明は。

答 登録事業所は活動に協力してもらっている。夜間照明は、ブルーイン投光器を昨年整備し、3台ある。各分団には配備できないが、貸出しはいつでもできる。

問 公債費の説明を。

答 令和3年度の借入れの償還はまだ始まっていない。3年度から償還が始まったのは、平成29年の小学校体育館天井改修、平成30年事業の第2牧場クロスカントリーコースである。

問 公債費の不用額の内容は。

答 償還額が確定したことによる不用額である。銀行からの借入れについては利率が変わることがある。予測ができないため当初予算は多くしている。

問 会計年度任用職員費用は令和2年と比較してどうだったか。

答 移行する際に調整した。比較すると、費用は増加した。人数は2名減である。

総務課

●歳出

問 地理空間情報活用推進事業経費の活用状況は。

答 立科町の航空写真を撮影し、最新のゆがみのない画像情報を各課で活用できている。

問 消防費の消防団出動についてどうだったか。

答 消防費の消防団出動についてどうだったか。

企画課

問 学生による地域課題解決事業について、事業化支援業務と関係人口創出業務の効果は、

答 タテシナソン実施後の、アイデアの事業化と関係人口をつくる課題に対して、令和3年度から3か年で地方創生推進交付金を活用して行う、事業の初年度の取組み。事業化支援業務の成果については、過去に行った3事業者のヒアリング、事業整理、事業計画策定などを行った。また、ローカルSEO対策のセミナーを複数回実施し、1事業者では、結果が出ている。関係人口創出業務の成果については、オンラインの交流イベントを2回実施し、バーチャル空間での交流を行った。

問 地域情報通信経費の「避難所等公衆無線LAN整備工事」で設置したアクセスポイント5施設はどこか。

答 避難所5か所は、老人福祉センター、

体育センター、女神湖体育館、小・中学校の体育館の5箇所、加えて役場庁舎にも設置した。

問 権現の湯事業経費の修繕料376万円の内訳は。

答 必要箇所の修繕であり、大きなものはヒートポンプ2基160万円ほど、機械室内の循環ポンプ交換。

問 地域交通対策経費の「たてしな定額タクシーチケット」の販売実績は。

答 2月・3月を合わせ、3か月券は販売券数10枚、使用回数31回、1週間券は販売券数7枚、使用回数14回で、2か月間の使用回数は、計45回。令和4年度に入って伸びている。



町民課

問 オレオレ詐欺等防止のための留守録音電話機設置状況は。

答 本事業は平成30年度より実施。令和3年度は1件。累計6件の設置となっている。

問 社会福祉費（実績報告書より）昨年度より増額の理由は。

答 令和2年度はコロナ禍で事業ができなかったものが、3年度は心配事相談・結婚相談等活動ができたものがあつたため。しかし、イベントの多くは実施できなかった。

問 その他事務費の経費が多額であるがその内容は。

答 保健事業事務費、人間ドック、電算事務費等である。多くの項目が含まれている。今後備考欄に記載するよう調整する。

産業振興課

問 有害鳥獣駆除委託料においてサルが入っていないが現在被害が出ている中、来年度予算に盛り込むべきでは。

答 承知している。広域協議会の今年の予算にサル檻の導入を計上して進めている。

問 佐久の食肉センター閉鎖後畜産農家の負担は減ったのか。

答 運賃の値上げに対して現在補助を行っている。令和3年度は佐久広域から34万8千円、当町は31万2千840円。

問 指定管理者に対してモニタリングが行われていない年があるが、評価をどのような形で行っているのか。

答 令和3年度のモニタリングにおいては早急に実施する。要望や連絡の中で施設の老朽化など言われており、精査していく中で検討をしていきたい。

問 第二牧場の使用料について監査委員から指摘があつたと思うがどのように考えているか。

答 「使用料の改定を検討された」と指摘があつた。現在二日頭260円で、近隣の牧場を調査したが、さほど差がない。値上げして放牧頭数が減らないか心配もある。

問 スキー場を指定管理にして良かったことは。

答 より責任意識が上がり、自主事業を色々工夫して行うようになったことは評価している。

問 クロスカントリーコース修繕132万とあるが今後使用料を徴収するつもりか。

答 あくまでも修繕なので現状に戻すためのもの。

問 条例では使用料を徴収することになっているが違反ではないのか。

答 観光施設条例の中で「町長が必要があると認められる時は使用料を減額し、又は免除する事ができる」とあり、これを適用している。



大雨のたびに洗掘されるクロスカントリーコース

建設環境課

問 大型生ごみ処理機を保育園に設置したが、その減量効果はどれほどか。

答 保育園は令和3年8月に処理機を設置。休園休校もあったがおおむね月に300kg程度の減量、環境負荷の軽減ができた。

問 CO₂の削減量は

答 一トン当たり750kgが削減できたと推定している。

問 家庭用生ごみ処理機は10件の利用があったが、事業系の生ごみ処理機の導入はどうだったか。補助率など何か反省することはあるのか。

答 コロナなどもあり、導入がゼロだった。補助率3分の1、リースの対応もあり、上限300万円なので、今後検証していきたい。

問 保育園・夢科地区のごみ減量の実績効果を踏まえ、各地区集積所への生ごみ処理機導入についての検討はど

うか。

答 継続的な管理、電気・水道料などにかかるので管理が難しいと考えている。アパートなどで活用してもらえればと考える。

問 地下水保全事業経費、具体的には何をしたのか。

答 佐久地域11自治体で水循環計画の冊子を作った。地下水保全条例・井戸の管理・水辺教室などでの交流を図っている。

問 グリーンベルトの整備は視覚的に効果があるが、どのような計画か。

答 小学校のPTA・学校等が通学路点検で要望がある。伊勢宮線（もみの木歯科クリニックから中学校まで）もその要望に基づき実施。



グリーンベルト

問 町営住宅維持管理で、使用料について滞納繰越が100万円あるが、軽減制度の対応はあったか。コロナで国保などは減免があったが軽減制度は設けないか。

答 軽減はしていない。滞納については現年度分、過年度分長期の滞納者にも電話などで連絡を取っている。3年度については、相談がなかった。

問 橋梁点検業務委託料だが、「ここは危ない」という指摘はなかったか。

答 令和3年度には22点検調査した。令和3年度調査では、できるだけ早く改修を要する3判定の橋が1橋あった。令和2年度調査の16橋と合わせ17橋となる。令和7・8年度までに計画的に修繕したい。長寿命化修繕計画改定業務委託料がそれにある。

水道事業未処分利益
剰余金の処分について
2342万6千円

問 剰余金の積み立ての規定はあるか。

答 H24年までは規定があったがなくなつた。今後を見込み建設改良積立金への積立てとした。

下水道事業未処分利益
剰余金の処分
1763万5千円

問 今後下水道の管などが古くなるため、建設改良積立金の方にはたくさん積まなくてよいのか。

答 令和3年度から始めた会計のため、まった会計のため、利益積立金への積み立てとした。



教育委員会

問 保育所費の保育委託費で、茅野市北山1人61万円、東御市海野で1人24.7万円と金額が大きく違うがなぜか。

答 公定価格（地域・預かる人数・保育士の数・施設内容等）により違いが出る。また、園児の年齢や預かる期間の違いにもよる。茅野市は4歳児、東御市は0歳児だった。

問 会計年度任用職員が増員について

答 計画外の未満児が入所したので、保育士を2人増やした。今年度は産休、育児職員の増加で、更に2名増やした。

問 使用料72万円は、保育業務支援システム使用料と思うが、運用は順調か。

答 園児管理・登降園管理・園の連絡等有効に順調に使用している。

問 土地借上料67万円を毎年支払っているが、買上げを検討しては

答 保育園では回答できないが、令和5年度に契約更新の年となる。理事者と地権者の問題と思う。

問 業務委託経費の教職員ストレスチェック4万9千円で、問題を指摘された先生はいたか。

答 41名の教職員で、問題が有る先生はいなかった。

問 要保護児童は何人か。準要保護児童は、小学校15人で何%か。

答 要保護児童はいない。小学校では5.4%。学校からは、就学支援のPRチラシや声掛けを行っている。



保育業務支援システム「コドモン」



権現山キャンプ場復旧箇所

問 中学校管理費、教材備品、大型ファン4台の使用目的は。

答 体育館の中が暑いので、熱中症とコロナ対策のため、学校からの要望で購入した。

問 教育施設災害復旧費で権現山キャンプ場の工事を245万円で行ったが、2度目の復旧工事であり、現状復旧でなく何か改善をしたのか。

答 法面土手の中に木柵を入れ、上層部に暗きよを設置した。完全ではないが、一定の土留め効果はでると思う。

◆特別会計

国民健康保険特別会計

問 国民健康保険について、加入者で生活に困っている世帯の現状の把握及び保険料軽減の判断について町民課で取組むべきでないか。

答 世帯の状況把握については税務係と連携し、考慮している。短期保険証は負担の公平性の観点からやむなく発行しているものである。

問 高額療養費が増加している原因は。

答 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受診控えが見られたが、受診が回復してきた事と、長期入院者数の増加や高額医療となるケースの増加が原因とみられる。

後期高齢者医療特別会計

問 保険証は全員に行き渡っているか。

答 短期保険証は発行していない。該当者全員に行き渡っている。

介護保険特別会計

問 介護保険サービス給付費が減っている理由は。

答 要介護3以上の方が減っていること。特別養護老人施設、養護老人施設と介護療養型保健施設入所者が減っているためである。

索道事業特別会計

問 営業収益に対する定割合を町と協議し、納付してもらうとあるが令和3年度はどうだったのか。

答 令和3年度については黒字になっているが令和2年度の赤字を補填するほどには至っていない状況なので、とても納付してもらう状況ではない。

問 利益が出た分に対してはもらうべきか。

答 協議のうえで総合的に判断をした。

問 町がやっている場合と比較してどう民間ノウハウが活かさ

れているのか検証は。

答 一番は施設整備に辺り地対策債が使えるようになったことや飲食コーナー、キッチンカー、ドッグランなど行っている。またICゲートを導入したことにより得られるデータを元に誘客を図るとともに、積極的に営業に回るなど前に行っている。

問 ICゲートの効果は

答 現在ICゲートを導入しているのは立科町だけとなっている。今後、エリア全体で連携をとっていければと思う。今は両スキー場のデータしかないが、いち早くデータを使いお客様の囲い込みに活用している。

住宅改修資金特別会計

問 これで会計は閉鎖となるが、債務者は何人残っているか。今後の徴収業務はどこで担当するか。

答 残り1817万円が未回収で6名分。今後は建設係で担当する。

水道事業会計

問 給水人口は減、配水量は増えたが有水量が減った、という説明がわからないが。

答 配水池からの配水量は増えているが実際の収入になる量が減っているということ、漏水などが関係している。

問 県から漏水探知機を借りて調査したと思うが、その効果はどうか。

答 エリアの絞り込みはできるがピンポイントでは分からない。

問 東御市（八重原簡易水道）への分水料改定の検討はどうだったか。

答 検討はしていない。令和2年度から八重原への分水量は減って

いる。

問 新しい自動検針システムの使い勝手はどうか。

答 1日でデータが取得できるようになった。

問 利率の高い企業債があるが、繰上償還はできないのか。過疎債の対象にはならないか。

答 繰上償還しても総返済額は減らない。また過疎債は充てられない。

下水道事業会計

問 企業会計となったが、上下水道を一つの企業会計にするという議論は始めたか。

答 令和3年度に企業会計になったばかりで移行が大変だった。そこまでの検討はできていない。

問 処理人口が減っているが、有収水量は増えているのはどういうことか。

答 白樺湖周辺での利便が増えている。観光客などが増えていると考える。



質問項目

今定例会では、議員7人が一般質問を行いました。



今井 清 議員 ……12 ページ

- ①防災・減災対策について
- ②立科町総合戦略について

村田 桂子 議員 ……14 ページ

- ①高校生支援について
- ②熱中症対策について

中島 健男 議員 ……13 ページ

- ①オーラルケア（口腔衛生）について
- ②新規大型事業3件追加、職員の負荷について
- ③芦田川の葦刈りについて

今井 英昭 議員 ……15 ページ

- ①役場内のDX(デジタルトランスフォーメーション)・ICTの推進について

森澤 文王 議員 ……13 ページ

- ①立科町の里の観光と文化財の保護について

今井 健児 議員 ……15 ページ

- ①立科温泉たてしなの里権現の湯について

榎本 真弓 議員 ……14 ページ

- ①ワンストップ行政サービスの推進について

※太字の質問を掲載。

議事録は議会ホームページで閲覧できます。

防災・減災対策について



今井 清

問 ゲリラ豪雨が多発していることから早急な防災、減災対策が必要。町の考えは。

町長 災害時の被害を最小化し、被害の迅速な回復を図る減災の考えを基本理念としている。

問 防災・減災対策本部を設置して早急に対応するべき。

町長 災害発生の恐れがある場合には、事前に災害警戒本部の設置や幹部会の開催をしている。

問 防災意識を変えするための防災教育について町の対応は。

総務課長 機会をとらえ、継続的に防災に関する情報を伝達している。県や町の防災出前講座も行っている。

問 ゲリラ豪雨を想定した防災訓練が必要では。

総務課長 27項目の防災訓練メニューを示して、地域の実情に合わせた実践訓練を推進している。

問 7月12日に発生した大雨災害の被害状況は。

産業振興課長 水田8ヶ所、畑17ヶ

所、水路5ヶ所に被害発生。
建設環境課長 町道等13ヶ所、河川4ヶ所に被害発生。

問 倒木による被害については。
産業振興課長 3件発生し、2件は、職員が伐採した。

建設環境課長 藤沢、西塩沢で倒木により通行止め。蟹原で河川に倒木、県に連絡した。

問 最近5年間で、県森林税活用事業による里山の整備事業を行ってこなかった理由は。

産業振興課長 森林税を活用する場合には、所有者の同意が必要となる。

問 災害の危険性の高い里山の間伐事業を早急に行うべきでは。

産業振興課長 現在行っている意向調査を早急に推進したい



豪雨災害による倒木現場



中島 健男

オーラルケア（口腔衛生）について

問 令和2年より歯周病検診が予算化された。内容は、歯の喪失を予防し、健康を維持するため、40・50・60・70歳及び妊婦に受診券を送付している。平均寿命より健康寿命が大切だが、長野県は、健康寿命が十年前後短い。適度な運動で筋力を鍛え、毎日十種類の食物をとることが必要とのこと。それには、口腔衛生が重要となる。町の推進状況は。

町長 この他に歯科相談、お口の健康教室、歯科口腔検診等を実施している。

問 60歳までは現状のままで良いが、65歳以上の高齢者は、半年に一度の検診にできないか。その費用は。

町民課長 対象人数は約2600人で、受診率を現状同様10パーセントとすると、187万2千円増加となる。

結び 過疎債で対応出来ないか検討願う。

新規事業3件が追加となったが、職員の負担は大丈夫か

問 当初予算決定後に①過疎対策事業債②デジタル田園都市③観光の高付加価値化の大型事業が追加され、現状業務もあり、職員の負担は大丈夫か。

町長 3件とも町の重点施策。ポリユームが有り、負担増になると思う。限られた人数で効率よく進める。また、業務の全体のバランスを見て進める。

問 要員増や配置転換はするのか。

副町長 平準化を図り、効率的、効果的に進める。その時々での要員増減は困難。

一級河川芦田川の葦刈りについて

問 県の管轄の一級芦田川を、地元で管理することについての見解を。

町長 地元の川を自らきれいにすることは、大切なことで、町民に感謝している。

問 人口減少と高齢化で危険が増す。やめられるか。

建設環境課長 県は、地域の自発的で任意の美化活動のためやめても問題ないとのこと。



森澤 文王

立科町の里の観光と文化財の保護について

問 里の観光という視点と文化財の保護という視点で、里の観光とはどの様に考えるか。

町長 まず里の観光として挙げられるのは、江戸時代に開通した五街道の一つである中山道が横断しており、歴史的文化的遺産が数多く残り、多くの方が訪れている。

また蓼科山からの清らかな水、豊かな大地、恵まれた気候風土により育てられた立科町の農畜産物、その購入や食材を使った料理の提供により「立科」を味わう事ができ、リング狩りやブドウ狩り、耕福館での農業体験等もある。権現山には、スポーツ施設や風の子広場、権現の湯もあり、里の観光としては色々なものを兼ね備えていると考えている。

風景についても、四季折々の風情のある里の景色が楽しめる。文化財の保護については、当町の文化財保護条例において、有形文化財、無形文化財、民俗資料、史跡名所の天然

記念物を文化財と定義している。その保存活用のために必要な処置を講じてきている。

町の文化財は観光資源と考えているが、新たに文化財を指定してそれが観光資源として、里の観光に結びついていくというところまでは、まだ検討が進んでいないのが実状であるものの、里の観光と文化財は切っても切れない関係にあるのは間違いないと考えている。

問 茂田井公民館の取り壊しが区で決定したが、保護を求める声もある。町で文化財に指定し、守って観光資源とする考えはないか。

町長 その件は承知しているが、茂田井公民館は、茂田井区の所有物である。今後の保存等については、実際に管理をされている茂田井区の皆様の考えが優先されるべきである。町としては、積極的に入り込んでいく、言及していく立場にはないと考える。





榎本 真弓

ワンストップ行政サービスの推進について

問 立科町の現状は。

町長 立科町は庁舎がワンフロアのため、職員が動き対応している。マイナンバーカードが普及促進すること、さらにメリットが上がる。

問 死亡届を行う遺族への支援は。

町民課長 行政手続きについての一覧表を渡し、日時なども考慮して相談を受けている。

問 行政手続き以外も相談できる遺族支援のための「おくやみ相談窓口」の考えは。

町民課長 現状で良いと考えるが、検討する。

問 町民サポートには保健師の役割が重要である。採用についての考えは。

副町長 現在、保健師5名。保健師は保健師免許と看護師免許が必要な国家資格の専門職である。令和3年度に、取りまとめや全体の連携を行う統括保健師1名を任命し、

指導や人材育成を行っている。採用に当たっては性別を設けず、専門職として採用する。

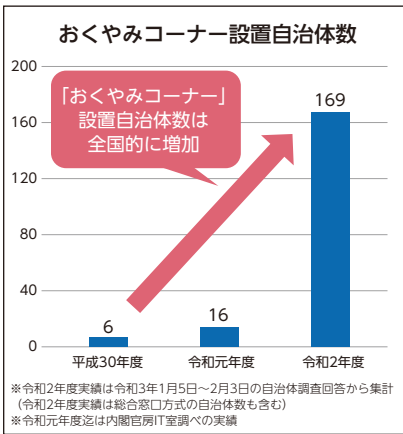
問 民間との事業連携は。

町民課長 各種検診業務やヘルスアップ事業など、連携委託している。

問 将来に向けたワンストップ行政サービスの推進は。

町長 町民の利便性向上のために重要であり、デジタル化進展も注視していかなければならない。他の必要とされる方策についても検討する。

結び 自治振興組合が紹介する子育て支援アプリ「母子モ」、長野県紹介の障がい者支援「ミライロID」など、立科町HPに繋がる提案をする。町民自らが情報取得できることも、ワンストップ行政サービスの一環である。



内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室資料より



村田 桂子

町外の高校に通う生徒に足の確保を

問 子育て支援でスッポリと抜け落ちていたのが高校生への対応だ。殊に町外の高校に通う生徒への足の確保支援が乏しい。高校へ通いやすいように町外へ引越した家庭があると聞いた。保護者による送迎の負担は重い。当町による高校生への足の確保をどのように考えるか。

教育長 高校の立地も含め進学先を考えたと思う。特段の支援は考えていない。

問 町内の高校生はバス便をどれほど利用しているか。

教育次長 中仙道15人、上田方面2人、丸子線は1人。常時利用者は18人。合計20人。

問 バス代への補助制度はあるか

教育次長 補助制度はない。

問 小海町では通学定期の3分の1を補助している。中山道線の平日・土日のバスの増便を考えるべきだが。

企画課長 一週間のバス便の利用

常用を調査したが、利用は1便当たり1.5人と少なかったので、朝夕のみとし、その間はタクシー利用への補助制度を新設した。

問 蓼科高校へは通学バスを走らせ町外の高校生の足の確保をしている。どれほどの支援か。

教育次長 運行について町は蓼科高校育成会に運行委託料2656万円、定期収入1166万円を引くと、差し引き1500万円ほどは育成会からの支援となっている。

問 蓼科高校生にはバス便で便宜をはかり、定期代への支援もある。そのスクールバスを立科発に増便できないか。また中山道線の平日日中・土日祝日の増便で、足を確保できないか。

教育長 蓼科高校のスクールバスは「貸し切り」の形態をとっているため、他の利用はできない。

企画課長 中仙道線は、利用が少ないため、減便を決めた。

結び 町外の高校へ通う生徒たちはずうっと不便なまま。

「自分で何とかしなさいよ」ということではないのか。改善すべきだ。

他に、通学の足としてのバイク、電動自転車への補助制度と給付型奨学金の創設について求めた。





今井 英昭

役場内のDX(デジタルトランスフォーメーション)・ICTの推進について

問 (令和3年12月定例会の一般質問の「令和4年度予算編成について」DX推進のための予算について)の追跡質問として)役場内のDX・ICTの課題と展望をどのように捉えているか。

町長 費用対効果が見込めず、先進的なシステムの導入が進んでいない。また高齢者が多いことから、アナログのニーズが高くデジタル化の必要性が十分に感じていなかった。そのため、他自治体と比較をして、デジタル化への着手が遅れている。

問 町が管理しているホームページやソーシャルメディアはいくつあるか。

企画課長 現在町が管理しているホームページは6サイト、Facebookは4個、Twitterは5個、Instagramは5個、Tik Tokは1個となっている。

結び 同じテーマのホームページやFacebook等があり、情報が分散化してしまい、また職員の負担軽減の視点から見直しが必要。

問 職員の情報リテラシー研修の現状は。

企画課長 最近は行っていない。

問 総務省が公表しているウェブアクセシビリティ(*)の指摘事項に対して改善は進んでいるか。

企画課長 現状のホームページでは、システムの再構築が必要な箇所があり、リニューアルに合わせて改善をする予定。

問 総務省が示している「自治体DX推進計画」によると、町の計画は15年遅れがあるが問題ではないか。

企画課長 遅れている部分があるが、しっかりと取り組んでいきたい。

問 デジタル人材育成は進んでいるか。

企画課長 今後の課題であり、現状はそれほど進んでいない。

(*)ウェブアクセシビリティとは、高齢者や障がい者を含め、誰もがホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できること。



最新の自治体DX推進計画



今井 健児

立科温泉たてしなの里権現の湯について

問 後期基本計画の年間入場者数20万人をどのように捉えているか。

企画課長 現在では乖離(かいり)が大きく達成は難しい状況である。

問 黒字化になる入館者数は何人か。

企画課長 令和3年度計算で、22万7000人ほど。令和3年度は入館者数13万人。不足する4500万円を一般会計から補填している状況。

問 町民のやすらぎとふれあいの場として設置した目的に対して目指すべき姿は。

企画課長 より多くの方に訪れていただくことを考えている。

問 入館者数を増やすために子ども料金をなくし、無料にしてはどうか。

町長 効果として疑問である。現時点では利用促進についていかに取り組んでいくかを優先した方が良い。

問 目標の20万人に向かうのか向かわないのか。

町長 向かっていくのは当然である。

問 では来年3月に5周年目に入る。感謝祭として一年間アプローチしてみてもいいか。

町長 議員の提案はしっかりと受け止めるが、検討するかどうかは今後考えさせてもらいたい。

問 環境支援策として権現の湯に駄菓子屋コーナーを設置しては。

企画課長 現在スペースの余裕はない。青少年の育成の観点から目が届くようにしなければならぬなど多くの課題があると感じている。

問 様々な理由でできないという事でよいのか。

企画課長 現実的には難しいと考

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
入館者	207,164	204,362	210,449	210,197	208,272	203,917	194,386	190,694	185,260	116,650
収支	△4,662	△12,403	△12,305	△1,813	△870	△17,843	△20,789	△10,199	△38,667	△380,801

※H30は施設の大規模改修工事のため5か月間休館【資料：企画課温泉係】

<施策の方針>
やすらぎとふれあいの場として、更なるサービスの向上に努め、利用の促進を図ります。機械設備、厨房設備等に未改修箇所があるため、これらの更新・修繕を重点的に進めていきます。

<成果指標>

指標名	現状：平成30年度	目標：令和6年度	総合戦略(KPI)
権現の湯年間入場者数	116,650人	200,000人	○

※平成29年度入場者数は185,260人
※平成30年度は大規模改修工事のため5か月間休館

第5次立科町振興計画後期基本計画

議会議員研修会

長野県町村議会議員研修会が7月14日(木)松本市で開催されました。

2件の講演が行なわれ、東京弁護士会 太田雅之氏による講演では、「議会におけるハラスメント」と題し、政治の分野における男女共同参画とハラスメント等について講演していただき、鶴見学園女子大学、鍵屋一氏には「町村自治体の防災・減災対策と災害時の議会議員の役割」と題し、明日に備える防災等の講演をしていただきました。



長野県町村議会議員研修会



北佐久郡議会議員研修会

8月23日(火)に北佐久郡議会議員研修会をオンラインにて開催しました。講演は「子育て世代の移住のために」～家と仕事と学校をどうするか～ をテーマに巴創業塾 藻谷ゆかり氏より「少子化を正しく理解する事」や「国勢調査から見る地方移住」など、自身の体験をふまえた深い見識から、今後活かす政策等を事例と合わせて講義いただきました。

表紙写真

野方の農道を歩いて出合った光景です。赤ちゃんを含め8人という大家族。楽しそうなおこびれタイムでした。「議会だより」の表紙に撮ってもいいですか?」と思わず声をかけました。久しぶりに集まったのでしょうか。稲刈り・ハゼかけなど大変な仕事も、みんなやればはかどります。収穫はまずまずのこと。ご一家の来年的ご飯は、大丈夫です。笑顔の弾むひと時でした。

(取材K)



議会活動について「ご意見・ご要望」をお聞かせください。

発行/長野県立科町議会 編集/議会だより編集委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL (0267) 88-8413 有線2311 FAX (0267) 56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL <http://www.town.tateshina.nagano.jp>



議会ホームページ

編集後記

コロナ第七波により今年も、えんご祭りなど町の行事が様々中止となり、ウクライナ戦争と共に、なかなか気持ちの晴れない日々が続きます。

でも、町内の田んぼでは稲穂が黄金色に色づき、リンドもたわわに実って、今年はずまずの出来のよう。台風などの被害がなければいいかと案じています。

子ども議会で6年生の質問に議員が答えました。地球温暖化や人口減少問題への取り組みなど難問ばかり。子どもたちの意見やアイデアをもっと、聴かせてもらいたいと思いました。

村田桂子

○今後とも「議会だより」をご愛読ください。

議会だより編集委員会

委員長
副委員長
委員

村田桂子
中村茂弘
榎本真弓
中島健男
芝間教男
今井健児